

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立 牛津中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	全職員による研修や相互参観授業、効果的にICTを活用することで、授業改善を進めることができた。ほとんどの生徒が「先生方の授業は分かりやすい」と答えており、生徒が意欲的に授業に臨む姿が見られた。また、各種の学力検査(定期テスト・実力テスト等)の正答率の向上につながり、無回答率も減少してきた。今後さらに教職員・生徒のICT活用を中心としたスキルを向上させることで、教員の授業力、生徒の意欲の向上に努めたい。「豊かな人間性の育成」についても、ほとんどの全生徒が「望ましい学年・学級集団づくりをされている」と答えている。学級活動や道徳等の授業、行事等を通して、「思いやり」「感謝」について考えることができています。「健やかな体の育成」についても同様に、ほとんどの生徒が「健康教育」を通じて、「自他の命を尊重する態度が育ったと思う」、「健康に食事は大切である」と生徒が答えたことから、健康や安全に対する意識を高めることができています。業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については、定時退勤や時間外勤務など減少し、効果が現れてきているが、さらなる意識改革を図り、推進していきたい。 2年間の研究の成果を生かして、「デジタルの力でリアルな生活を支える」との基本的な考えに立ち、バランス感覚をもって積極的に取り組んでいきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	豊かな人間性を培い、志を高く学び続ける生徒の育成 ～ 主体性と協働性を高めることを通して ～
----------	--

3 本年度の重点目標	① 確かな学力の育成：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と家庭学習の習慣化 ② 豊かな人間性の育成：支持的風土の醸成を図り、自己存在感や共感的人間関係を育む ③ 健やかな体の育成：健康、安全に対する意識を高め、基礎的な体力の向上を図る
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	○効果的にICTを活用した授業の実践と工夫。 ○本年度も引き続き、ICTを活用した授業実践と教科を超えた相互参観授業研究会の実施。	○「ICTを活用した授業を実施した」と答える教員を90%にする。 ○「ICT活用で工夫した」と答える教員80%以上。	・ICT活用研修を定期的実施し、職員のICT活用技能向上を目指すとともに、わかりやすい授業の実践を目指す。 ・最低一人1回以上の相互参観授業を行い、積極的且つ効果的な授業でのICT活用を目指し、情報を共有する。	A	・各教科や経験者研修の研究授業や意見・情報交換を行った。結果、教員の授業力・指導力の向上に繋げることができたと思われる。また、職員研修や隔週研修会参加を充実させ、職員のスキルアップすることができた。 ・「ICT活用した授業を実施できた職員が90.9%であった。100%に近づけるよう、今後も研修・実践等に力をいれていく。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒一人一人が安全・安心して過ごせる学校・学年・学級集団づくりを推進する。 ○「特別な教科 道徳」の学習を通して、自己有用感・自己肯定感を伸ばしていくことができるよう、アンケート等を活用しながら検証し、割合を80%以上にする。	・各種行事等で、年間最低1人1回の出席・役割を与え、成果を褒めることで、自己有用感・自己肯定感を伸ばす。 ・全職員で、「特別な教科 道徳」の授業を行い、豊かな心や人間性を培い、支持的風土を醸成し認め合い、助け合い、支えあえる集団づくりの推進を行う。	A	・99.1%の生徒が「先生方の授業は分かりやすい」と答えている。その中でも電子黒板やタブレット等ICTを活用した職員の授業力が向上していると考えられる。 ・96.9%の生徒が「安心して学校生活できる望ましい学級・学年集団作りをされている」と答えている。各教科指導とともに、「特別な教科 道徳」や個に応じた日指導・支援を通して、認め合う集団づくりの成果と考えられる。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生徒の日常生活や相談、行動、発言等、生徒の姿容等を常時観察し、「小城市のいじめ防止・心を考える日」を活用して、定期的な生活アンケート等(月に1回)を実施する。	・生徒指導部や生徒支援部会の運営を充実させ、情報を共有し、いじめの未然防止に努める。 ・QU検査の実施により、支援が必要な生徒の把握と対応に努める。	A	・生徒96.4%、教職員100%、保護者93.9%以上の回答で「あてはまる」と答えて昨年度より上回っている。「特別な教科 道徳」や学級活動、各種行事等で自己存在感・自己肯定感・達成感を味わわせ、自分や他者を大切に思うことができる指導・支援が効果的であった。 ・毎年QU検査の結果を年2回分析し、学年職員で生徒一人一人を把握し、指導・支援を行うことができた。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 ○校内適応指導教室「支援ルーム」の効果的な運営。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・開発的生徒指導の機能を生かした取り組み。(出番・役割・承認) ・各種の行事や活動で生徒に活動の見通しを持たせ、振り返りを行う活動を充実させ、将来の夢や目標に繋げていく。	A	・「めあて」を意識した授業に取り組んでいる生徒は93.3%と昨年とほぼ同じである。学習に意欲的・積極的に取り組む生徒が多い。職員がわかりやすく工夫した授業・個に応じた指導・支援に取り組んでいると考えられる。 ・不登校対策としての昨年度設置した「支援ルーム」を活用し、入級した生徒が徐々に登校することができた。ほとんどの生徒が学級への復帰に近づいていると考えられる。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」。	●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上	・学校給食を「食育」の中心に据え、健やかな体を育むための食に対する知識の習得と自分の健康について考えた食事をしようとする態度の定着を図る。 ・給食時に「一口メモ」を放送し、食に関する知識を習得させる。 ・早寝、早起き、朝ご飯の推進。	A	・99.1%の生徒が「健康に食事は大切である」と回答している。また、毎日きちんと朝食をとって登校しているほとんどである。 ・給食時に毎回生徒会より「献立について及び食の大切さ」を放送で呼びかけ、健康維持には食事がとても大切であるという意識の向上と習慣の定着を図ることができている。
	○健康・安全教育の推進。	○健康教育や予防教育等を年1回計画し実施するとともに、保健体育の授業においても、随時実施する。	・発育測定やスポーツテスト等で自分の体の発育・発達を知り、健康に生きる意識を高める ・学校医や各関係機関等の外部講師による保健指導の工夫と実践。	A	・健康教育を全学年複数回実施し、99.1%でほとんどの生徒が「自他の命を尊重する大切さを学ぶことができた」と回答。 ・各講話等のアンケート結果から、健康に関する意識が向上し、効果的な健康教育となった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・部活動活動方針を遵守し、活動時間や活動内容をガイドラインを守った指導・支援。 ・定時退勤推進日の設定を行い、前年度の時間外在校時間の削減。	B	・部活動休業日の実施については、特例を除きほぼ100%実施できている。定時退勤日については、未だ個人差があるので、声かけ等を引き続き行っていく。また、昼休みの二分割の実施継続で、以前より退勤時間が早くなっているが、今後も効率化を図り、働き方改革に取り組む必要がある。
	○一枚岩のチーム牛津を意識した効率的な業務の推進。	○組織的且つ、効率的な業務への取組を推進し、教職員の時間外在校時間を削減する。	・組織的な業務遂行を進めることで、個人の業務負担を軽減するとともに、風通しのよい職場環境づくりに努める。	A	・職員の95.5%が効率的な業務改善に勤め、昨年度よりポイントが高く組織的・計画的な対応ができてきている。 ・時間外勤務については、月によって偏りはある。平均的には若干ではあるが減少傾向にある。
●特別支援教育の充実	○個別の支援計画等により、職員の共通理解を図り、全職員で支援を行う。	○特別に支援を要する生徒の共通理解・共通実践により保護者・生徒・教師との合意形成を図り、支援にあたる。	・支援を要する生徒への対応・支援体制の組織化を図るため、担任や、特別支援教育コーディネーター、教育相談担当を中心にSC、SSW等との連携を図る。 ・巡回相談及び専門家派遣が必要ときには研修の機会を設け、保護者との連携を図りながら、専門家からの指導・助言を支援に生かす。	A	・ケース会議は基本的には学年ごとに、生徒一人に対し複数回実施。 ・以前より特別支援コーディネーターを中心にSC、SSW等と連携して個別に対応、細やかな支援体制を継続することができている。 ・定期的な教育支援部会を行い、特別支援教育に関する情報交換や対応について共通理解を図り、指導・支援に繋げることができている。また、必要に応じてSCやSSWからのアドバイスを受け、保護者との連携を図った。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価	
	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果
○小中連携	○小中連携による学力向上の取り組み。	○小中による情報共有を定期的且つ、必要に応じて行う。	・小中連携した学校力向上対策運営委員会を活性化させ、積極的に授業参観や情報交換を行い、成果と課題、今後の取り組みについて検討、共有する。 ・生徒指導や教育相談担当者間での情報交換及び情報共有を行っていく。	A	・今年度も、小中連携の授業参観を1回行い、職員の半数が参加し情報交換を行った。 ・小学校区のセーフティネット会議や、「特別支援教育部会」「教育相談部会」などにおける研修会で情報交換を行い、生徒理解に努めることができた。 ・新入生の入学前連絡会を行い、スムーズな中学校生活のスタートができるように努めていく。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	これまで積み重ねてきた研修や、相互参観授業、効果的にICTの活用で、授業改善を進めることができた。多くの生徒が「先生方の授業は分かりやすい」と答えていることから、生徒が意欲的に授業に臨んでいることがわかった。また、各種のテストの正答率の向上につながるとともに、無回答率も減少してきた。今後さらに教職員や生徒のICT活用スキルを向上させることで、教員の授業力・指導力、生徒のさらなる意欲の向上に努めたい。 「豊かな人間性の育成」については、多くの生徒が「望ましい学年・学級集団づくりをされている」と答えている。学級活動や「特別な教科 道徳」等の授業、各行事等を通して、いままで培ってきた「思いやり」や「感謝」について考えることが継続できている。 「健やかな体の育成」についても同様に、多くの生徒が「健康教育」を通じて、「自他の命を尊重する態度が育ったと思う」、「健康に食事は大切である」と生徒が答え、健康や安全に対する意識を高いことがわかる。 業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減については、徐々にではあるが、時間外勤務など減少し、効果が現れてきている。これからも、さらなる意識改革を図り、推進していきたい。
----------------	---